

2020年度 びわ湖トラスト親子環境学習講座 「トチノキ観察」実施報告書

後援： 大津市教育委員会、草津市教育委員会
 協賛： 公益財団法人平和堂財団
 概要： びわ湖の水源の一つである朽木の豊かな自然は人の手によって守られている。
 トチノキが昔から重宝され、伐採されずに巨木となった理由やその魅力を直接山に入り、触れて知ってもらう。

プログラム

		A	B
実施日		9月19日(土)	11月7日(土)
参加者		5組(12名) 子供6名、保護者6名	9組(16名) 子供6名、保護者10名 ※キャンセル8名
講師		青木 繁氏 元 滋賀県立 朽木いきものの里 館長	
スタッフ	平和堂財団	—	2名
	びわ湖トラスト	理事 4名	理事 3名
	巨木と水源の郷をまもる会	1名	3名
	ボランティアなど	4名	13名
観察地		小入谷方面	ココンバの滝 ブナ原生林

講座の様子

バスで参加の方はJR大津駅・JRおごと温泉駅で集合し、朽木中牧にある『山帰来』へ向かう。自家用車参加の方は直接『山帰来』に集合し、開催した。青木先生から話を聞いて実物を見る前に勉強。トチとそれ以外の葉の形や大きさを見比べたり、トチの実を間近で見たり、トチノキに関する本を読んだ。

途中の道では周辺の植物についての解説も青木先生から聞いていた。

トチ餅ぜんざいを食した。

9月17日

天候に恵まれた。シカに食べられてしまった実の方が多かったが、少ないながらも参加者はトチの実拾いと、巨木を目の前にしての観察を楽しんでおられた。



11月7日

雨が心配だったが中断することなく目的地まで行くことができた。ココンバの滝では地元の方が滑らないように端に縄を巻いておいてくださる。また、かつてのホトラ山では、トチノキ、ブナ、ハリキリなどが生育する自然林などでブナの落ち葉探しをした。

昼食は皆で『山帰来』で用意していただいたカレーを食べた。





広報活動

- 滋賀県の『しがこども体験』『びわ活』に掲載
- プレスリリース（県政記者クラブへの投げ込み）：8/17（参加者案内）・9/3（開催案内）
- 読売新聞に記事掲載：9/29

コロナウィルス感染症についての影響と対策

- コロナウィルス感染症による自粛期間が春のトチノキの実施日5月30日に被っていた為、11月に延期した。
- 密状態を防ぐため、バスでの募集人数を10名とし、参加人数の縮小を行った。
- 抽選結果郵送時にコロナウィルス感染症対策に関する注意事項も作成。事前の健康状態などを自身で確認していただいた。
- 当日は受付時に参加者全員検温を行った。
- 消毒液を準備。食事・休憩時も密を防ぐため、距離を取るよう工夫した。